

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2015年5月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第564号

日本キリスト教会館の耐震
改修工事が、いよいよ六月一
日から始まりです(工事完了
は二〇一六年二月の予定)。
この計画については、ここに
至るまでに様々な経過があ
り、また多くの困難がありま
したので、周囲のいろいろな
人から心配や懸念の声をかけ
て頂きました。それもあつ
て、この間の経緯と日本クリ
スチャン・アカデミーの基本
的な姿勢について短く報告す
ることとします。

新宿区西早稲田にある日本
キリスト教会館の建物は、エ
キユメニカル・センターとし
て一九七〇年に竣工していま
す。日本キリスト教協議会
(NCC)や日本基督教団を
初め、いくつかの教団本部
またキリスト教社会事業に関
する様々な団体が、この建物
を中心に活動してきました。
地上七階、地下一階、総面積
四三四五㎡の施設です。もと
もこの土地は、バプテスト
新生社団(早稲田奉仕園)の
敷地が提供され、隣接してA
VACO(キリスト教視聴覚
センター)が建設されていま
す。クリスチャン・アカデ
ミーは、一九九九年に日本Y

MCA同盟から、この建物の
六階の全フロアと七階の一
部、さらに一階の事務室と地
下倉庫を譲り受けています。
以降、この施設を用いてアカ
デミーの様々なプログラムが
展開されて来ました。さらに
いくつかの関係団体に貸し出
し、また早稲田奉仕園に委託
して貸会議室・教室としても

日本キリスト教会館耐震改修工事



なかっただのですが、耐震診断
をしたところ、築四〇年が経
過し、建築基準が厳しくなっ
たこともあって、耐震補強が
必要と判断されたのです。し
かしキリスト教会館は、一〇
団体の区分所有となつてお

広く利用されて来ました。こ
の一五年ほど、クリスチャン・
アカデミーの諸活動は、その
収益によって支えられてきた
と言っても過言ではありませ
ん。

財団理事
関東活動センター運営委員長
成能 信生

り、それぞれの財政事情が異
なります。建て直しをするに
しても、耐震改修工事をする
にしても、大きな財政負担が
必要です。そこから、管理組
合において検討が始まりまし
た。全面的な建て替え新築計
画も提案されましたが、新宿
区は建築高さ制限の条例が制
定されており、新築の場合は
五階程度の建物しか建てられ
ないことも判明しました。そ

ここで、必要な耐震補強工事と
老朽化している部分の改修工
事を計画しました。ヴォーリ
ス設計事務所に設計・管理を、
株式会社佐藤秀に施行を依頼
し、総工費二七、五〇〇万円
をかけて耐震改修工事を実施
することにしたのです。その
資金は、管理組合において積
み立てられた約一億円の内、
八千万円を取り崩し、八千万
円を関係団体から借入して今
後一〇年で管理組合から返済
し、残りの一一、五〇〇万円
は、各所有団体の面積割合
で負担することになりました。
日本キリストチャン・アカ
デミーの負担は、したがって
約二、七〇〇万円になります。
当法人にとっては大きな負担
ですが、この建物を利用する
人々、働く人々の安全のため
に、またエキユメニカル・セ
ンターとしての意義と使命を
担うためにも必要であると考
えています。

以上、これまでの経緯をご
く簡略に報告しました。引き
続き、この計画と日本クリス
チャン・アカデミーの活動の
ためにご理解とご協力をお願
いします。
(日本基督教団千代田教会牧師)

関東活動センター

●2014年度「神学生交流プログラム」第6回

「キリスト教の原像を求めて」

校長・青山学院大学名誉教授、日本
基督教団神奈川教区巡回教師

講師・カトリック司教、真生会館理
事長

関田 寛雄さん
森 一弘さん

2015年3月16日(月)〜18日(水)

東京 黙想の家



第6回の神学生交流プログラムは、よい天候に恵まれて、今年もイエズス会東京黙想の家で行われた。交通の便と豊かな自然とに恵まれたこの場所は、カトリック神学院と修道院に隣接し、普段から黙想会などが開かれ祈りが積み重ねられている場所である。入り口に「沈黙」を呼びかける立て札があるが、敷地に近づき足を踏み入れると自ずと静寂、そ



して神との対話へと招かれる気持ちがある。一日目は関田寛雄校長の開会説教が始まった。弟子の派遣から説き起こされる励ましに満ちたメッセージに力づけられ、オリエンテーションへ移動する。戒能信生牧師の趣旨説明と、若干の事務連絡と

注意事項の後、松本敏之牧師の巧みなリードによって、アイス・ブレイクを兼ねた自己紹介。八神学校(日本聖書神学校、関西学院、日本カトリック神学院、農村伝道神学校、同志社大学、聖公会神学院、日本ルーテル神学院、西南学院)から十五名の神学生たち、四名のスタッフと二名の講師が、好きな聖書の登場人物を挙げつつ語る。和やかな

雰囲気にならなかつた。三日間で神学生が分担する役割も、積極的な姿勢であつたという間に決まっていた。多彩なパースナリティと賜物を豊かに用いてくたさる主に期待しつつ、順調な滑り出しであつた。

森一弘司教の二回の講演は、御自分のライフストーリーと、現時点で達し得たところの福音書とは何か、教会とは何かについてであつた。森司教は、「むなしきにつきあげ」られつつ、キリストに引き寄せられていく人生を振り返りながら、神に導かれて祈りと霊性の旅路を歩んでこられた道のりをわかりやすく語られた。参加者からも内容はもちろんのこと、何も隠さ

ずにありのままに私たちの前にいて下さつて、神学の言葉を努めて使わずに話される姿勢そのものからも、多くのことを学んだとの声を聞いた。

さて、この交流プログラムの特徴の一つは、食事やミーティング、礼拝、晩祷・交流の時間などにおいて神学生がその時間を導く担当者となることである。夕食後のミーティング、交流の時では、一日目は各神学校の紹介、二日目は所属する教派の紹介を中心に相互の懇親を深めた。ある時はユーモラスに、またある時はシビアな現実を、同労者ならではのフランクな雰囲気の中で披露しあうことができた。朝の礼拝、晩祷は、さまざまな教派の礼拝スタイルで、ともに一人の主を仰ぐ者たちとして心を一つに合わせた。

二日目のフィールドトリップでは、目白の日本聖書神学校を見学させていただいた。神学校の歴史と現在について、印刷物だけでは知りえない詳細にもわたり、小林誠治校長から丁寧な説明を伺った。高橋克樹教務部長の案内で図書館や寮を見せていた

いた後、集合までのわずかな時間は、小グループに分かれて近辺の教会を見て回ることでできたのも、感謝なことであつた。

最終日の朝、受難節でもあり、カトリック神学院の参加者により、修道院の庭で「十字架の道行き」を導いていただき(自由参加)、参加者は心のうちに主の十字架の受難の意味を深く受けとめた。

「今回参加のなかつた神学校にも是非来てもらいたい」「再度集合する機会があつたらよい」などの意見がまとめの会にて出され、今後の参考にしていきたいと思う。

閉会礼拝で関田校長によって語られた「あなたはわたしを愛するか」というイエスの問いかけに対する応答へと押し出されていく、三日間のプログラムであつた。

このプログラムのために指
定献金をささげ、また祈りによつて支えてくださったすべての方に感謝したい。

(小泉麻子)

関西セミナーハウス活動センター

●2014年度 修学院フォーラム「いのち」第2回

「福祉とスピリチュアリティ—社会福祉の根拠にあるもの」

同志社大学社会学部教授 木原 活信さん

2015年1月24日(土)

2015年1月24日(土)に開催された第2回「いのち」修学院フォーラムには、21名が参加し、木原氏からの発題をうけ、活発なディスカッションが行われた。最近の傾向として福祉について学ぶ際、援助のスキルに関する詳細な分析が中心になる傾向がある中で、今回の講座は福祉の根拠を支えるエッセンス、基本的原理について学ぶ機会となった。木原氏は、福祉におけるキリスト教精神をヨハネによる福音書「井戸で出会われたサマリアの女」の記事を用い、まず援助者が「渇く」弱さを認める「ことの大切さを述べられた。イエス自身がまず水を飲ませて欲しいとサマリアの女に頼む行為は、援助者自身が自らの弱さを認識し、人の前に立つことの大

切さを示している。また、社会福祉におけるスピリチュアリティとして、人間の全体性の回復、超越性への信頼などについて話された。教会が公共福祉を提供できる場として地域の課題にかかわっていく可能性についても言及され、これからの教会の新しい姿についても活発な意見が交換された。参加者は、カトリック教会で初めてビラを見て興味を持って参加した人、神学部学生、ホスピス医、社会福祉の現場にいる人達など多様な顔ぶれで、弱さについて語りあった。木原氏は、キリスト者にとつて信仰に生きるパッションの重要性を強調され、パッションが生み出す連帯がこれからの社会にとつても大切である事を確認する集会となった。

●2014年度 修学院フォーラム「社会」第4回

「日韓関係の障壁とその打開に向けて」

天安(チヨナン)サルムン教会 牧師 韓国神学大学招聘教授

崔 亨 默さん

2015年2月11日(土)

日本基督教団洛南教会 日本基督教団京都教区大田老會交流委員会

共催



2015年2月11日 日本基督教団において「信教の自由を守る日」と定められているこの日に、韓国基督教長老會大田老會から崔亨默(チエ・ヒョンムク)牧師をお迎えし「韓日関係の障壁とその打開に向けて」と題して講演会を行った。

今年2015年は韓日協定(日韓条約)から50周年になる年であり、また1945年解放・終戦から70周年、また1910年韓日強制併合に先立ち、日帝の韓国強制占領の起点になる1905年乙巳(ウルサ)条約から110年になることから、韓国と日

本の関係が歴史的にどのようなに移り変わってきたのかを詳しく検討され、多くの学びになった。

そして今、保守政権の朴槿恵政権と安倍政権が登場する中、両国の関係は極度に悪化していき、その根本にあるのは過去の歴史問題であることが明らかにされていく。そしてこの問題は広く東アジアの葛藤を呼び起こすものとなっているのである。

過去の問題は包括的に言えば植民地支配と戦争の問題であるが、それが東京裁判、1952年のサンフランシスコ条約、1965年韓日協定を通してであっても、充分かつ完全な解決ができなかったために、今日までその葛藤が引き起こされる原因が残され続けているわけである。

またドイツの戦争犯罪を考える際にヤスパースが目し

た「人道に反する罪」の概念は、権力の統治行為から生じる様々な暴力に対して責任を問う根拠となってきた。ジェノサイド、アパルトヘイトと共に植民地支配と「慰安婦」問題も具体的な懸案として国際的な関心が高まってきており、この現実から顔を背けることができないうものであることを強く感じさせられる。

また聖書が一貫して強調している「正義」の観点から歴史的犯罪と責任の問題を新たに確認することが求められていると訴えられた。最も弱い立場におかれていたり、苦痛を訴えている人々の尊厳性が守られるかどうかにかかっている問題であり、現代における人権と正義の要求を裏付けるものとして聖書のよみなおしと実践が求められているのである。

講演の後、会場からは積極的な意見や質問がなされ、またこの集いには広く人権問題に関わる仲間たちが参加しており、この会を継続的なものにしたという意見も出された。

(報告 日本基督教団膳所教会 大山修司)

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書講座2015「新しい聖書の学び」**

「イエスの譬え話」に響く声(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：③6月9日④7月14日
⑤9月8日
火曜18:30～20:00

会場：早稲田教会ロビー
参加費：1,200円/学生500円
テキスト：『イエスの譬え話1』
共催：早稲田奉仕園

■**関東フォーラム宗教対話I**

「古典で読む20世紀 第II期」(全4回) 第1回「I. レーニン『帝国主義論』(岩波文庫)」

日時：7月24日(金)18:30～20:30
講師：武田利邦さん(農村伝道神学校講師)

会場：早稲田教会ロビー
参加費：500円(4回連続1,500円)

■**関東フォーラム「今日的課題」**

「自死」に遭遇した人への慰めとはー牧会の現場から 第2期(全5回)

講師：賀来周一さん(キリスト教カウンセリングセンター相談室長)

日時：①6月8日②7月13日
③9月14日④10月5日

⑤11月9日、
月曜14:00～16:00

会場：日本聖書神学校
参加費：1回2,000円
定員：10名(先着順、要申込み)
協賛：日本聖書神学校キリスト教研究所

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**
■**能を楽しむタベ in 修学院きらら山荘**
第23回 能『熊坂』

日時：6月19日(金)17:30～
解説・出演：林宗一郎さん(観世流能楽師)

会場：関西セミナーハウス
定員：50名
能観賞料金：2,000円/学生1,000円

■**林宗一郎を囲んでの懇親会**

日時：上記各回能楽鑑賞後
会場：関西セミナーハウス 茶室清心庵
会費：1,500円(要予約)

■**月釜 清心会**

日時：6月21日(日)、7月12日(日)
9:00～15:00受付
(1、8月を除く年10回)
於：関西セミナーハウス
年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**
■**2015年度「お茶のこころと宗教のこころ」**

第1回「初夏の茶室とバスで巡るフィールドツアー～京都のキリシタ

ン史跡を訪ねて」

講師：杉野 榮さん(日本パプテ
スト連盟京都洛西教会協力
牧師)

日時：6月6日(土)10:00～17:00
集合：関西セミナーハウス
参加費：8,000円 定員：20名

■**2015年度 開発教育セミナー**

第1回「開発教育入門セミナー
Think Globally, Act Locally ～「足もと」と「世界」をつなぐ～」
<協力プログラム>

主催：(独)国際協力機構 関西国際センター (JICA 関西)、
(公財)京都市国際交流協会

講師：関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会他

日時：2015年6月28日(日)
10:00～16:30
会場：kokoka 京都市国際交流協会館

参加費：無料(JICA関西へ要申込み)

■**2015年度修学院フォーラム「福祉」**

第1回「希望の介護ー認知症を考える『中島塾』によろこそ」

講師：中島 健二さん(京都府立医科大学名誉教授、神経内科医師)

日時：7月11日(日)13:30～17:30
会場：関西セミナーハウス
参加費：一般2,300円、学生1,000円

財団本部
<http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター
<http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス
<http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター
<http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正
本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256
関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com
関西セミナーハウス /
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256
関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告

2015年3月1日～2015年3月31日
(順不同・敬称略)

◆**財団本部**
寄付金
日本基督教団早稲田教会 25,000
◆**関東活動センター**
賛助会費
古賀 博 5,000
高德 芳忠 5,000
高畑 昭久 5,000
藤野 冷子 5,000
寄付金
日本基督教団番町教会 10,000
谷津 槇子 5,000
村瀬 敬子 2,000
神学生交流プログラム募金
柳下 明子 10,000
日本聖書神学校学生自治 3,000
同志社大学神学部 40,000
松本 敏之 10,000
古賀 博 5,000
日本基督教団早稲田教会 50,000
武田 利邦 5,000
中井 博雅 5,000
竹中 百合子 3,000

匿名(プログラム参加者有志) 16,500
戒能 信生 5,000
古賀 博 5,000
松本 敏之 5,000
藤野 冷子 5,000
◆**関西セミナーハウス**
寄付金
杉本 紘彦 10,000
◆**関西セミナーハウス活動センター**
賛助会費
李 善恵 5,000
網野 俊賢 5,000
多田出 佳代子 5,000
八杉 恵 5,000
上條 美代子 10,000
宇井 裕美 5,000
土井 健司 5,000
寄付金
網野 俊賢 10,000
津田 能人 5,000
堀口 こみち 10,000
島田 恒 10,000
以上、感謝をもってご報告申し上げます。